

## ナラティブ的探究から見えてくる教師の世界

**ジーン・クランディニン教授（カナダ・アルバータ大学）講演**

*Dr. D. Jean Clandinin, University of Alberta, Canada*

**教師の“支えとする物語”をささえる教師教育へ**

**通訳：山辺恵理子（都留文科大学 講師）**

“ナラティブ的探究”を牽引する、ジーン・クランディニン教授をカナダよりお迎えして、ナラティブ的探究と教師教育について語っていただきます。研究者と研究参加者との関係を大切にする“ナラティブ的探究”の方法は、語りと語り直しを通して経験を動きの中でとらえ示してくれます。息長く実践家に寄り添うナラティブ研究は、研究と実践の二元論を超え、教師の世界を、また教師教育のどのような可能性を見せてくれるのか。（詳細は裏面参照）みなさまのご参加をお待ちしています。

**日 時**

**2017年10月19日（木）13～15時**

**場 所**

**東京学芸大学小金井キャンパス**

**20周年記念飯島同窓会館 2階 第四会議室**



**事前申込不要**

お問い合わせ先： 東京学芸大学教員養成カリキュラム開発  
研究センター 金子真理子 [currict@u-gakugei.ac.jp](mailto:currict@u-gakugei.ac.jp)

## 講演の趣旨

教師になりたいという希望を燃やし続けることと、その教師の早い時期の「支えとするストーリー」がいかに関わるのかを、様々な教師研究から私たちは理解するようになった。教職につくと、教師たちはこの支えとなるストーリーを生きよう、それを保持しようとする。若い頃に形作られ個人的な実践知として具体化された支えとするストーリーを生き続けようとするのである(Clandinin, Schaefer & Downey, 2014)。もし教師たちが、初めて赴任した学校でこれを維持することができないとき、「支えとするストーリー」は「離れていくためのストーリー」へと変化してしまい、彼・彼女らは教職を去っていく。私たちの研究は、初任期の教師たちが自分の個人的な知の風景に根ざした個人的な実践知を目に見えるものにすることができるよう、教師教育プログラムを構成していくことの重要性を示している。私たちは教師教育の仕事の中で、この知の複雑性を可視化するあり方を見いだしつつあり、この知を私たちは何を知っているのか、いかに知なのか、また教育者として自己の生を生きる私たち自身をささえるのに何が必要かと問いかけさせるような探究へと開いていこうとしている。

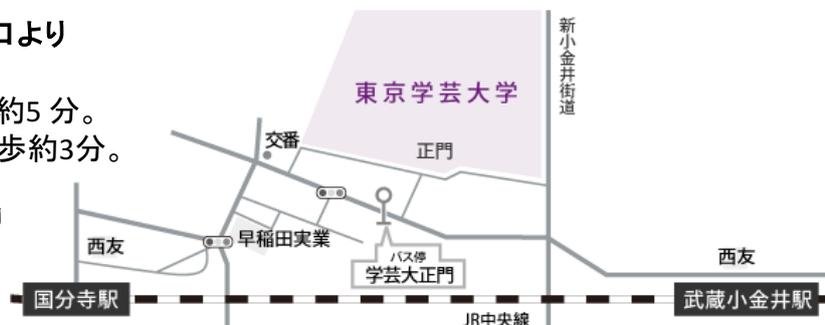
## ジーン・クランディニン(D. Jean Clandinin, PhD. Professor, University of Alberta)

カナダのアルバータ州エドモントンに位置するアルバータ大学にて教師教育センター長を務める。翻訳された著書に、『子どもと教師が紡ぐ多様なアイデンティティ カナダの小学生が語るナラティブの世界』田中昌弥訳、2011年、明石書店がある。

著書 Clandinin et al. *Composing Diverse Identities—Narrative inquiries into the interwoven lives of children and teachers*, 2006, Sage. Clandinin, D. J., Schaefer, L. & Downey, *Narrative conceptions of knowledge*, 2014, Emerald. 等

## 東京学芸大学へのアクセス

- JR 武蔵小金井駅・北口より  
京王バス(5番乗り場)  
「小平団地」行に乗車, 約5分。  
「学芸大正門」下車, 徒歩約3分。
- JR 国分寺駅・北口より  
徒歩約20分。



- 会場の20周年記念飯島同窓会館は正門を左手にあります。